

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ネパール

日付：2019年10月31日

報告書（資金）：平成31年度 完了報告書（JPF）

平成31年度 JPF 完了報告書

|               |   |
|---------------|---|
| 事業名           | ネパール南部における南アジア洪水被災者に対する救援物資配布事業   |
| 事業対象地         | ネパール サルラヒ郡  |
| 事業期間          | 2019年9月2日～2019年10月31日   |
| 公的資金種別        | ジャパン・プラットフォーム   |
| 予算            | 9,999,995円  |
| 事業の成果<br>（概要） | サルラヒ郡の2つのMunicipality（以下、「自治体」）において、洪水による被害を受けた世帯が当面の生活に必要な食糧である米30kg、豆5kg、日用品として毛布2枚、蚊帳2枚を合計1,200世帯に配布した。これにより、家屋や備蓄していた食糧に被害を受け、日々の生活に困窮していた被災者の基本的ニーズが満たされた。   |
| 事業実施後の個別の成果   | <成果><br>1,200世帯が緊急支援物資を受け取り、およそ10,800人が当面の生活で喫緊の必要性のある物資を得た。  |
| 教訓・提言         | <p>教訓・学びとしては、以下の点が挙げられる。事業地では、ネパール語とは異なるローカル言語が使用されていた。そのため、村を訪問してニーズ調査やモニタリングをする際、首都や首都近辺から来た当会や現地カウンターパートのスタッフが住民とコミュニケーションをとろうとしても、意思疎通に手間と時間がかかること、正確性が担保されないことが分かった。結局、ネパール語とローカル言語を両方理解する地元住民にボランティアを頼むことで対応したが、その都度時間のある住民を探し、事業説明をして村に向かうのは効率が良くなかった。より良い方法としては、ネパール国内でのカウンターパートである現地連携団体のほかに、事業地で活動するローカル団体と提携し、彼らに通訳や道案内を依頼することが考えられる。これにより現地のリソースをより一層活用し、主体性を重視した活動が可能になる。</p> <p>事業計画書では、裨益世帯のうち100世帯に対しモニタリングを実施するとした。しかし、事業地への出発前の打合せ・調整や、現地での物資調達、通訳ボランティア確保に時間を要し、また、ダサイン<sup>1</sup>をはさんだこともあり、モニタリングに当初予定していたほどの時間を確保することが困難になった。さらには、自治体や区によって裨益世帯の自宅が点在して存在していたこと、同じ村に同姓同名の人がいたことから、ランダムに抽出した世帯を訪問し、対象者にインタビューをするのに予想以上に時間がかかることが分かった。この結果、統計的に妥当な数として65世帯を対象にモニタリングを実施することとした。事業計画時に現地で発生する事象や状況をすべて把握することは困難であるから、想定できる範囲内で余裕をもった事業設計を心掛ける必要がある。</p> |

<sup>1</sup> ネパール最大の祭りであり、2019年は10月5日から1週間ほど全国的に休日となった。

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ネパール

日付：2019年10月31日

報告書（資金）：平成31年度 完了報告書（JPF）